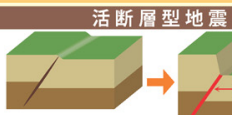


地震の際は、姿勢を低く、頭を守り、動かない！
家庭・地域・学校・職場でシェイクアウト！
(安全確保行動)

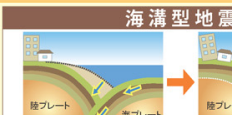
地震防災マップ

発行：平塚市防災危機管理部 災害対策課
年月：平成29年3月

地震発生のおきくみ



海のプレートの動きなどによって、陸のプレート内に力が加わり、地震が発生します。この地震は、人が多く住んでいる場所のすぐ下で起こることもあり、その場合は大きな被害が生じます。平成7年に発生した阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震もこのタイプの地震でした。



海のプレートが陸のプレートの下へ沈み込む時に、陸のプレートの先の方でも下に引きずり込まれます。この陸のプレートがその下に耐えきれず、元に戻ろうとする時に地震が発生します。この地震は巨大地震となることがあり、津波を伴う可能性があります。

震度階級の見方

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況
7	立っていることができず、歩けないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできない。飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れる。また、飛ばされることもある。
6強	立っていることができず、歩けないと動くことができない。飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。

縮尺 1:27,500

揺れやすさマップ

「揺れやすさマップ」とは、「大正型関東地震」(モーメントマグニチュード(Mw)8.2)が発生した場合の震度分布を50mメッシュ(50m四方のマス)単位で表現したものです。地震の規模や震源の位置が異なれば、地盤の揺れやすさマップに示した震度よりも強くなったり弱くなったりすることがあります。

想定地震

大正型関東地震とは、相模トラフを震源域とする地震で、モーメントマグニチュード(Mw)は8.2です。この地震は、大正12年(1923年)に発生した大正関東地震を再現した地震です。この地震の発生間隔は200年~400年と言われており、30年以内の発生確率はほぼ0~5%と低くなっています。しかし、発生した場合には、平塚市の大部分で震度7の揺れとなり、想定される死者数が1,220人になるなど、大きな被害が予想されます。

被害想定(平塚市)

想定規模	大正型関東地震	都心南部型大正地震	南相模トラフ型大正地震	東海地震	神奈川川原型西側地震	三浦半島型西側地震
震度	Mw8.2	Mw7.3	Mw9.0	Mw8.0	Mw6.7	Mw7.0
最大震度	震度7	震度6強	震度5強	震度5強	震度5強	震度6弱
全壊棟数	21,700棟	500棟	70棟	30棟	10棟未満	10棟未満
死者数	1,220人	20人	10人未満	10人未満	20人	0人
負傷者数	8,770人	1,010人	170人	120人	130人	60人

防災情報の入手先

- 平塚市ウェブサイト
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>
- ほっとメールひらつか 以下のページからアドレス登録
<http://scn-net.easymyweb.jp/pocket/k/>
- Twitter(平塚市防災危機管理部)【アカウント】@HiratsukaBosai
- 防災行政無線
防災情報等をスピーカーから放送し、市民の皆さんへお知らせする放送装置で、市内126か所に設置されています。(平成29年3月時点)
- テレホンガイド(利用には通話料がかかります。)
1時間以内の間に限り、放送した内容を確認することができます。
- 気象庁ウェブサイト
<http://www.jma.go.jp>
各地の地震情報のほか、各種気象情報などが確認できます。
- e-かなマップ
<http://www2.wagamachi-guide.com/pref-kanagawa/>
地図や住所検索から、市内の津波浸水想定区域や震度分布図などを拡大して閲覧できます。
- ラジオ・テレビ放送
FM周波数78.3MHzの湘南ケーブルネットワーク(SCN)を通じて防災番組や災害時の緊急放送・文字情報での情報提供を行います。

緊急地震速報が発表されたら

- 気象庁は、震度5弱以上の強い揺れが予測されたとき、テレビやラジオ、携帯端末などを通じて緊急地震速報を伝えます。
- あわてず外に飛び出さず、頭や身を守る行動をとりましょう。
- 車を運転中の際は、ハザードランプを点灯し、道路の左側に停止してください。

凡例 Notes

- 避難所 Evacuation place
- 公民館 Community center (Temporary refuge)
- 市役所 City government office
- 消防署・出張所 Fire department
- 警察署・交番・駐在所 Police station/Police box
- 救急病院 Emergency hospital
- 国道 National route
- 県道 Prefectural route
- 鉄道 Railroad track
- 市界 City boundaries

揺れの体験をしよう

市では、地域の防災訓練等で地震体験車による震度7までの揺れを体験できる機会を提供しています。地震からの身の守り方などを学ぶため、揺れを体験しましょう。詳しくは災害対策課までお問い合わせください。

建物被害予測マップ

「建物被害予測マップ」とは、揺れやすさマップで示した「大正型関東地震」(モーメントマグニチュード(Mw)8.2)の揺れとなった場合、著しい被害を受ける建物の割合(建物全壊率)を50mメッシュ(50m四方のマス)単位で表現したものです。マップに示す被害予測は、50mメッシュに含まれた建物の被害を予測したもので、個別の建物の被害を示すものではありません。そのため、被害率が高い地域であっても耐震性の高い建物は壊れにくく、反対に被害率が低い地域であっても老朽化した建物は壊れる可能性があります。

室内の安全対策をしよう

- タンス**
 - 突っ張り棒やストッパー式器具、し字金具などで固定し、転倒防止対策をしましょう。
- 食器棚**
 - 観音開きの扉には**開放防止金具**を取付けましょう。
 - 棚板には滑りにくい材質のシートやふすまなどを敷きましょう。
- ガラス**
 - 戸棚のガラスや窓ガラスには、飛散防止フィルムを貼りましょう。
- 感震ブレーカー**
 - 震災時の通電火災を防ぐため、揺れを感じると電気の供給を停止させる**感震ブレーカー**を設置しましょう。設置後は、枕元に懐中電灯などを用意しましょう。
- 移動しやすい家具**
 - キャスター付きの家具やテレビ、キッチンラックなどは、**移動防止対策**をしましょう。
- 照明器具**
 - 鎖と金具を使って**数箇所止め**ましょう。
 - 蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておきましょう。

建物の耐震化をしよう

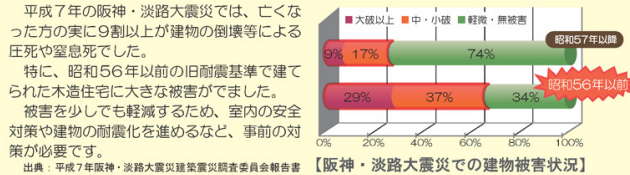
まずは耐震診断を受け、耐震性が不足していると判定されたら耐震改修工事をしましょう。木造住宅の耐震化には補助金制度があります。耐震化の流れは次のとおりです。

- 1 耐震診断 (補助金制度①へ)**
 - ◆地震に対する安全性の確認を!◆
昭和56年5月31日までに建てられた木造住宅は、まずは耐震診断をして耐震性の確認をしましょう。
 - ◆耐震診断のポイント◆
●壁の強さ
●建物のバランス
●建物の劣化状況 など
 - ◆耐震診断が全額補助になります!◆
- 2 耐震補強設計 (補助金制度②へ)**
 - ◆補強計画を検討しましょう!◆
耐震基準を下回った場合は、建築士に相談して補強計画を立ててもらいましょう。補強工事をした場合のおおよその費用もわかります。
- 3 耐震補強工事 (補助金制度③へ)**
 - ◆地震に強い建物で住まいへの安心を!◆
補強計画に基づき、できるだけ速やかに工事を行います。

補助金制度を利用しよう

- 平塚市補助金制度一覧 (平成29年3月時点)
- 1 耐震診断補助金制度(まちづくり政策部 建築指導課)
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/machizukuri/page-c-01908.html>
 - 2 耐震補強設計補助金制度(まちづくり政策部 建築指導課)
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/machizukuri/page-c-01938.html>
 - 3 耐震補強工事補助金制度(まちづくり政策部 建築指導課)
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/machizukuri/page-c-01939.html>
 - 4 耐震シェルター設置推進事業補助金交付制度(まちづくり政策部 建築指導課)
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/machizukuri/page-c-01947.html>
 - 5 ブロック塀等倒壊予防補助金制度(まちづくり政策部 建築指導課)
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/machizukuri/page-c-01930.html>
 - 6 いけがき設置奨励補助金制度(都市整備部 みどり公園・水辺課)
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/koen/page-c-02798.html>

建物被害の特徴



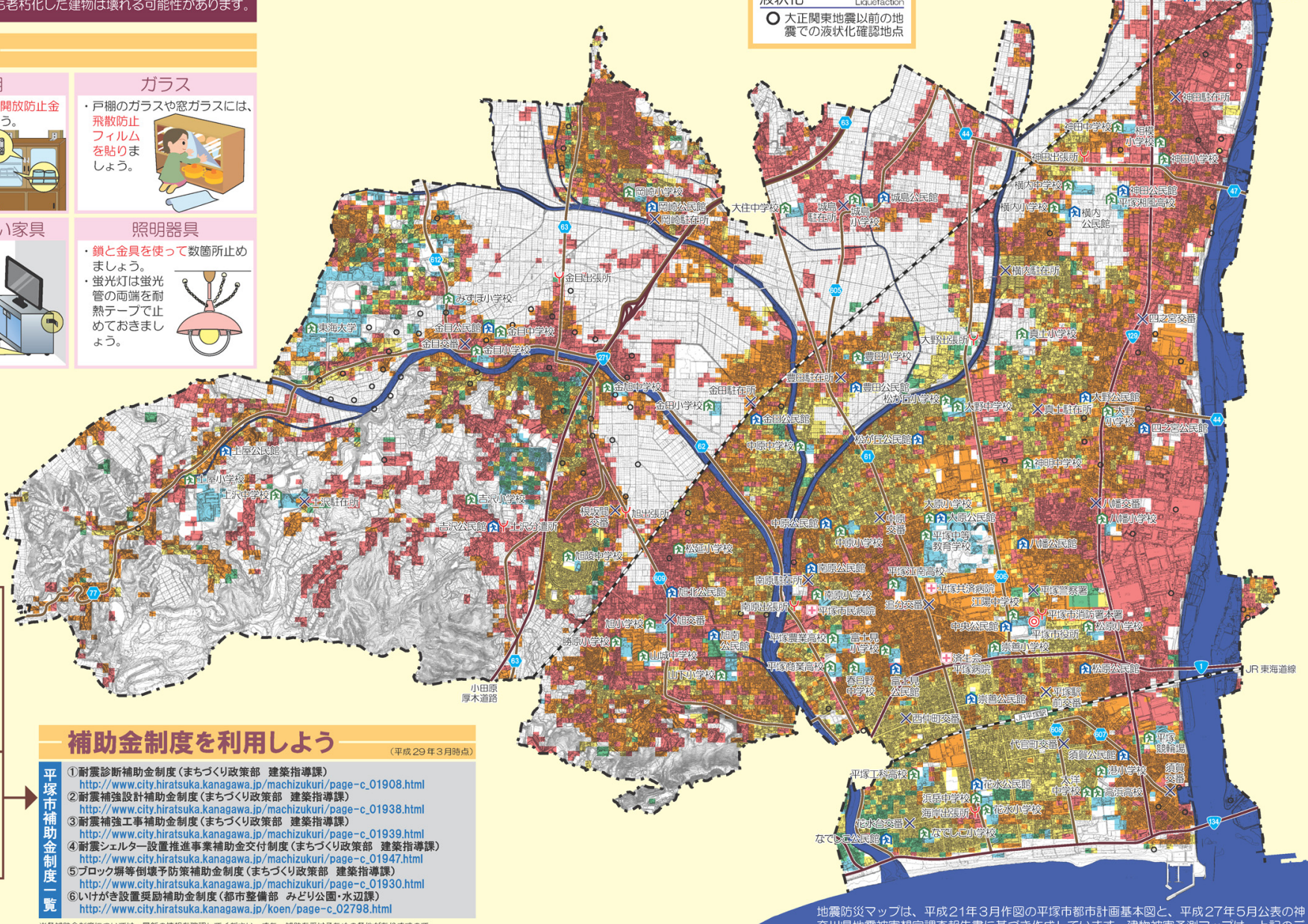
凡例 Notes

- 建物全壊率^{※1} Percentage of total collapse
- 40%以上
- 30%~40%
- 20%~30%
- 10%~20%
- 0%~10%
- 建物無し
- 液状化^{※2,3} Liquefaction
- 大正型関東地震以前の地震での液状化確認地点

※1 50mメッシュ(50m四方のマス)単位に含まれるすべての建物のデータ(年代・構造等)を用いて計算しています。そのため、新しい建物であっても、その他の建物の影響で高い全壊率となる場合があります。

※2 液状化地点は、平成9年に行われた「東海地震の地盤調査」を基に示しています。○印は過去に液状化した地点を示していますが、その範囲や被害の程度を示すものではありません。

※3 e-かなマップで、地震の揺れによる液状化の危険度を示した、液状化危険度マップを見ることができます。



地震防災マップは、平成21年3月作図の平塚市都市計画基本図と、平成27年5月公表の神奈川県地震被害想定調査報告書に基づき作成しています。建物被害予測マップは、上記のデータに加え、平成28年1月時点の固定資産税台帳データに基づき作成しています。